

創刊号

千葉大学

画像工学同窓会会報



野田 栄三氏 (昭和29年卒) 撮影

1997年10月

画像工学同窓会初代会長として

吉村 実



1990年4月1日に、旧「画像工学科」と「画像応用工学科」は一体化し、「画像工学科」が発足いたしました。その後7年あまりが経過し、学部卒業生が4回、大学院画像工学専攻修士修了生が2回、世に出ています。しかしこれらの卒業生、修了生で同窓会を設立し運営するにはあまりにも人数が少なく、経験もありません。そこで、1996年9月14日に伝統ある「千葉大学工芸写真会」と「芝葉印刷学部会」とが母体となって、「画像工学同窓会」が誕生いたしました。これからは、毎年、「画像工学科」の卒業生、修了生が多数世の中に出ていきます。「千葉大学工芸写真会」と「芝葉印刷学部会」の同窓会員数の合計は約4,000名強と聞いております。両同窓会の会員の皆様へ、「画像工学同窓会」を支えて頂き、卒業生を暖かく受け入れてくださることをお願いいたします。将来は、母体の「千葉大学工芸写真会」と「芝葉印刷学部会」を一体化し、「画像工学同窓会」へと発展することを願っております。

私は、新同窓会発足総会に於いて、諸先輩の多数居られる中、又、伝統ある千葉大学「画像工学同窓会」の初代会長として、若輩で恐縮ではございますが、選任され、就任いたし

ました。微力ではございますが、その発展に努力する所存でございます。「千葉大学工芸写真会」会長高橋恭介様、「芝葉印刷学部会」会長古賀健一郎様、そして会員の皆様のお力添えをお願いいたします。「総会および懇親会の開催」「会誌の発行」「卒業生・修了生を励ます会」などを通じて、同窓会の活動を軌道に乗せ発展させるよう努力いたします。

事務局を「画像工学科」内に置かせて頂くことで、画像工学科学科長はじめ学科の教職員の皆様にご迷惑をお掛けすることの無いようにいたしますが、宜しくお願い申し上げます。最後ですが、「画像工学同窓会」の設立にご尽力されました設立準備委員会の皆様へ感謝申し上げ会長就任のご挨拶と致します。

「画像工学同窓会」設立の経緯について

三位 信夫

東京美術学校（現東京芸術大学）に製版科と写真科として誕生（1914～1915年）し、1921年創立の東京高等工芸学校に順次移管されて以来、東京工業専門学校から千葉大学工芸学部を経て千葉大学工学部へと変身し、その過程で文部省科学研究補助技術員養成所や千葉大学工業短期学部、千葉大学大学院工学研究科を併設して発展してまいりました千葉大学工学部（旧）画像工学科と画像応用工学科が、21世紀に向けて一体化し、1990年から千葉大学工学部画像工学科に改組されました。これらの詳細については、別表（6ページ）「画像工学科のあゆみ」をご参照下さい。これに続いて、千葉大学大学院工学研究科（旧）画像工学専攻と画像応用工学専攻も1994年から一体化した千葉大学大学院工学研究科画像工学専攻に改組され、続いて1996年から千葉大学大学院自然科学研究科（博士前期課程）像科学専攻に再改組されました。

東京美術学校写真科から東京高等工芸学校印刷工芸科付属写真部、東京工業専門学校写真工業科を経て千葉大学工学部（旧）画像工学科ならびに千葉大学大学院工学研究科（旧）画像工学専攻に至る卒

業・修了生は、同窓生の集いとして「千葉大学工芸写真会」をもってあります。また、東京高等工芸学校印刷工芸科から東京工業専門学校印刷工業科を経て千葉大学工学部画像応用工学科ならびに千葉大学大学院工学研究科画像応用工学専攻に至る卒業・修了生は、同窓生の集いとして「芝葉印刷学部会」をもってあります。

千葉大学工芸写真会と芝葉印刷学部会の2つの同窓会には、日本における写真・印刷・画像情報産業界などで指導的立場にある多くの人達が所属し、常に産業界をリードしてまいりました。1968年に千葉大学工学部の同窓生の集いとして「千葉大学工学同窓会」が設立されてからは、千葉大学工芸写真会がその第6部会、芝葉印刷学部会がその第7部会として組織を支えてまいりました。

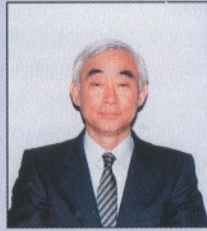
1990年に始まる伝統ある2学科の一体化は、新たな同窓生の集いを必要とする一方で、指導的立場にある先輩達との交流が求められてまいりました。そこで、新しい同窓会組織設立のために、2つの伝統ある同窓会の幹事と新学科の学生、卒業生からなる新同窓会設立準備委員会を設け、数年にわたる意見

の交換と調整の結果、2つの伝統ある同窓会すなわち千葉大学工芸写真会と芝葉印刷学部会を分科会とする新しい「画像工学同窓会」の設立案がまとまりました。新しい画像工学同窓会の設立案は、1996年4月12日（金）開催の千葉大学工芸写真会総会ならびに1996年3月17日（日）開催の芝葉印刷学部会幹事会にていずれも認められました。

これらの決議をもとに、1996年9月14日（土）に画像工学同窓会設立総会が千葉大学けやき会館にて開催され、画像工学同窓会の設立趣旨と規約・予算・事業計画案などの説明が行われたのち、満場一致の賛同を得てここにめでたく画像工学同窓会が発足いたしました。新しい画像工学同窓会は、工学部の同窓生の集いである千葉大学工学同窓会の第6／7部会として組織を支えていくこととなります。

画像工学同窓会に期待する

千葉大学工芸写真学会会長
高橋 恭介



写真と印刷の学科の源が、東京美術学校（現芸大）に設立された写真科と製版科にあることは、当時、これらの技術が芸術・美術の表現手段としてとらえられていたようです。しかし、日本では、写真や印刷技術は揺籃期にありこれら技術の向上拾得のほうにウエイトがかからざるを得なかったものと考えられます。その結果、高等工芸学校へ移され、Technologyの研究教育と同時にArtsの分野も含むこととなったのではないかと思います。印刷をGraphic Artsというように画像を扱う分野では、現在でもTechnologyと同時に美的感性で扱うことが求められています。また、これまでの写真・印刷・複写・プリンタなどのハードの画像技術は、現在成熟期にあり、コンピュータ画像処理などのデジタル技術と結びつくことによってこれまでのような技術分野の境界はうすまり、技術の相互乗り入れ、融合化、統合化と同時に応用・利用・システム化のようなソフト的な展開が期待されています。このような時期工芸写真会と芝葉印刷学部会を分科会とする形で新たに画像工学同窓会が発足したことは、時期を得たものと考えております。

同窓会の目的は、会員相互の親睦と会および画像工学分野の発展に寄与することとなっております。前にも述べましたように画像情報産業は、技術の多様化と新しい技術の組合せ、応用展開により発展途上にあります。多様化を内蔵したこのような産業に対応するには、画像工学も多様性を持たねばならないと思います。現在、三つの同窓会に属する多数の会員の方々が、何らかの形でこの画像情報産業にかかわっておられるはずで、進展の速いしかも時事刻々変化しているこの分野では、耳で聞く情報が大変重要であります。ぜひ、工学同窓会が主体となった総会を含め年2回程度の後援会を各分野で活躍されている方々を講師として開いてほしいものと考えております。気楽に聞きに行け、情報交換ができる場を設け、それを年1回の機関誌に載せるようにしてほしいものです。基本的に同窓会は、一つであるべきですので、時間をかけ、すっきりした形になることを期待しております。

画像工学同窓会発足に寄せて

芝葉印刷学部会会長
古賀健一郎



千葉大学の写真と印刷の卒業生同窓会である工芸写真会と芝葉印刷学部会がこのほど大同団結し、新たに、千葉大学画像工学同窓会として発足することになり、心からお祝い申し上げます。

ご承知のとおり、現在わが国は激変の時代を迎えております。日進月歩の技術革新に支えられたハイテク化の波は、従来の価値観を大きく変え、産業構造にも著しい変化をもたらすに至っております。印刷においてもコンピュータの出現がもたらしたデジタル化の到来は、二十数年前に経験したオフセット化に匹敵するとも劣らない技術革新と遭遇しております。振り返ってみると、昭和四十年後半に”活字よさよなら、コールドタイプよこんにちは”に例えられるコールド化への変革は、それまで百年の歴史を持った活字を主体とした活版印刷が、写真光学と化学を使ったフィルム製版方式のオフセット印刷へと大転換を遂げた、まさに印刷の一大技術革新ともいえるものでした。そして、今またコンピュータの出現で大きな変革を遂げようとしています。コンピュータでの組み版は勿論、デジタル技術と結びつくことによって、写真や画像を同時に画面上に取り込み、しかもイメージセッターなどの出力機でフィルム出力することが可能となるなど、これまでどちらかといえば別の技術とされていた印刷と製版技術が完全にドッキングした融合化、統合化が実現するに至っております。また、パソコンのデータを使って生産・工程管理の開発も現在進められてきております。今後、さらに原稿あるいはフィルム・刷版作成のパソコンデータをそのまま使って印刷機上での品質管理、工程管理や後工程の製本管理などに応用する技術が開発され実用化されてきていることからしても、印刷技術の革新はとどまるどころか、ますますそのスピードを早めてくることが予測されています。

こうした印刷を取りまく環境や動きを考えると、今回、芝葉印刷学部会と工芸写真会がいっしょになってまとめ、画像工学同窓会を発足させたことはまさに時流を得たものであると思います。画像工学同窓会の発足にご尽力いただきました関係者の方々に改めてお礼を申し上げますとともに、同窓会の今後のますますの発展と会員皆様方のご活躍を祈念いたします。

画像工学同窓会会則

名称

第1条：本会は画像工学同窓会と称する。

目的

第2条：本会は会員相互の親睦をはかると共に画像工学に関する研究と知識の交換を通じ、斯界の発展に寄与することを目的とする。

会員（正会員、特別会員）

第3条：正会員は千葉大学工芸写真会および芝葉印刷学部の正会員と千葉大学工学部画像工学科、千葉大学大学院工学研究科画像工学専攻、千葉大学大学院自然科学研究科像科学専攻の在校生・卒業生・修了生とする。特別会員は千葉大学工芸写真会および芝葉印刷学部の特別会員と千葉大学工学部画像工学科、千葉大学大学院工学研究科画像工学専攻、千葉大学大学院自然科学研究科像科学専攻の現職教職員（ただし正会員を除く）および幹事会で承認された者とする。

役員

第4条：本会の運営のために次の役員を置く。

会長 1名 副会長 3名

幹事長 1名 副幹事長 若干名

幹事 若干名 会計監査 3名

上記の役員で役員会を構成する。

第5条：本会の運営、発展のために会長の委嘱により顧問及びクラス委員をおくことができる。

顧問 若干名

クラス委員 各卒業年次毎に若干名

第6条：会長、副会長、幹事長、副幹事長、幹事及び会計監査は役員会において推薦し、総会の議決を経て決定する。

第7条：役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。

学科長に依頼した副会長の任期は学科長在任期間とする。

第8条：会長は総会を招集し本会を運営する。副会長は会長を助け、会長事故ある時はこれを代理する。

第9条：幹事長は本会の業務に携わる者で、必要に応じて幹事会を招集し通常業務を行う。

副幹事長は、幹事長を助け、幹事長事故ある時はこれを代理する。

第10条：幹事は、本会の庶務、会計、会誌編集、名簿管理などの業務を分担する。

第11条：会計監査は本会の会計を監査し、会計担当幹事は会計年度末において会計報告書を作成し、その結果を総会において報告しなければならない。

第12条：クラス委員は同級生の状況（慶弔、住所変更など）を把握し、必要に応じて本部に報告する。

総会

第13条：総会は通常年1回開催し、本会の運営発展に関する事項を審議決定する。総会における審議決定は出席者の過半数の同意による。

幹事会

第14条：幹事会は幹事長、副幹事長、幹事によって構成され、本会の運営、発展に必要な事項、業務、行事等を立案、検討及び実行し、本会の運営、発展のためにこれを努める。必要に応じ会長、副会長の出席を求めることが出来る。

業務

第15条：本会は次の業務を行う。

一、会誌発行に関する事

一、会員名簿管理に関する事

一、会員相互の親睦のための集会に関する事

一、学部卒業・大学院修了会員激励等に関する事

一、会員の慶弔に関する事

一、その他幹事会において、本会の目的達成に必要なと認める事項

会費

第16条：本会は入会金、年会費及び寄付金をもって本会の運営、発展、維持に当てる。

入会金10,000円、年会費1,000円

一旦納入された入会金、年会費は原則として返却しない。

特別の催し物などについては臨時会費を徴集する場合がある。

付則

第17条：本会会則変更の場合は総会の承認を必要とする。

第18条：本会の会計年度は毎年4月1日より始まり3月末日に終わる。

第19条：本会の本部を千葉大学工学部画像工学科内におく。

第20条：本会は支部をおくことができる。

第21条：本会則は平成8年9月14日より施行される。

第22条：本会は内規を別に定める事が出来る。

運営内規

1. 会長

会長は当分の間任期を2年間とし、千葉大学工芸写真会及び芝葉印刷学部より交互に選出する。

2. 副会長

副会長は当分の間、千葉大学工芸写真会及び芝葉印刷学部より各1名を選出する。

更に画像工学学科長を副会長に依頼する。

3. 幹事長

幹事長は会長を出している部会より選出する。

4. 副幹事長

副幹事長は当分の間、千葉大学工芸写真会及び芝葉印刷学部より、各若干名を選出する。

5. 幹事

千葉大学工芸写真会、芝葉印刷学部及び画像工学卒業生から若干名を選出する。

6. 顧問

顧問は千葉大学工学同窓会、千葉大学工芸写真会及び芝葉印刷学部の会長経験者、千葉大学工芸写真会及び芝葉印刷学部の運営発展に寄与した会員を会長が委嘱する。

7. クラス委員

クラス委員は各卒業年次毎に若干名を選出する。

8. 会計監査

千葉大学工芸写真会、芝葉印刷学部及び画像工学卒業生より選出する。

9. 会誌

千葉大学工芸写真会、芝葉印刷学部及び画像工学卒業生による会誌編集委員会を構成し、会報の発行をする。（原則として毎年発行する。）

10. 会計

画像工学同窓会の会計（予算案、会計報告の作成など）を担当する。

11. 庶務

総会など諸々の会務（会計、会誌編集、名簿管理、会計監査以外）を担当する。

12. 名簿管理

千葉大学工芸写真会、芝葉印刷学部の会員の名簿を各部会で管理する。新卒業生の名簿は画像工学で担当幹事を設けて管理する。

13. 慶弔に関する事項

会員に不幸があつて会に連絡があつた場合には、弔電を送る。

会に貢献をした会員に不幸があつて会に連絡があつた場合には、遺族の意向を尊重し、生花、花輪、香典等を出すことができる。

14. 会費に関する事項

千葉大学工芸写真会、芝葉印刷学部の正会員、特別会員で終身会費納入者は画像工学同窓会の入会金納入済みとする。

15. その他

内規の変更は幹事会の承認を必要とする。関係者の入会は幹事会で決める。

（例えば、関係者とは大学院博士課程入学者及び修了者、留学生、研究生等である。）

16. 運営内規は平成8年9月14日より施行される。

画像工学同窓会役員

会長：吉村 実（昭和35年、コニカ（株）特別顧問前常務）

幹事（○印責任者）

副会長：本田 捷夫（特別、千葉大学画像工学科学科長）
山司 康雄（昭和29年、大日本印刷（株）専務）
三位 信夫（昭和33年、千葉大学画像工学教授）

庶務：大沢 慎一（昭和41年） 志村 暉雄（昭和41年）
燕木 啓二（昭和42年） ○北村 孝司（昭和45年）
斎藤 一（昭和58年）

顧問：松島 義昭（昭和13年） 井下 廣（昭和15年）
角田 隆弘（昭和15年） 大江 茂（昭和17年）
川俣 正一（昭和17年） 阪口 富弥（昭和19年）
江越 壽雄（昭和22年） 渡辺 一平（昭和24年）
国司 龍郎（昭和25年） 久保 走一（昭和26年）
古賀健一郎（昭和29年） 松本 和雄（昭和30年）
藤田 互（昭和30年） 土屋 元彦（昭和33年）
高橋 恭介（昭和34年）

会計：田中 恒雄（昭和36年） ○矢口 博久（昭和49年）
会計監査：○山本隆太郎（昭和18年） 野田 栄三（昭和29年）
海野 元弘（平成6年）

幹事長：大野 隆司（昭和40年）
副幹事長：山岡 亜夫（昭和37年） 正田 章（昭和39年）
豊田 芳州（昭和40年） 甘利 武司（昭和41年）

会誌編集：田中 崇（昭和30年） ○小林 裕幸（昭和47年）
湯本 好英（昭和51年） 岩崎賢太郎（昭和63年）
中村 幹（平成2年） 田貝 秀文（平成6年）
名簿管理：古矢 泰一（昭和33年） 相良 頼巳（昭和39年）
○小関 健一（昭和48年） 青木 直和（昭和50年）

会計報告

<画像工学同窓会平成8年度会計報告案>

<▼画像工学同窓会平成2～7年度会計報告>

収入の部

内 訳	予 算	決 算	差 額
前年度繰越金	8,392,032	8,392,032	0
新入生入会金	1,450,000	1,470,000	△20,000
総会費	300,000	366,000	△66,000
新卒者を励ます会費	45,000	12,000	33,000
年会費・寄付	500,000	0	500,000
利息	80,000	25,174	54,826
小計	2,375,000	1,873,174	501,826
合計	10,767,032	10,265,206	501,826

	収 入
新入生入会金	8,780,000
工学部同窓会より	704,000
後援会より	150,000
新卒者を励ます会費	154,000
利息	238,663
合計	10,026,663

支出の部

内 訳	予 算	決 算	差 額
委員会費	200,000	61,811	138,189
新卒者を励ます会	340,000	432,000	△92,000
総会経費	700,000	558,215	141,785
通信費	800,000	620,769	179,231
会誌編集発行費	1,000,000	0	1,000,000
雑費	70,000	1,188	68,812
慶弔費		15,000	△15,000
小計	3,110,000	1,688,983	1,421,017
次年度繰越金	7,657,032	8,576,223	△919,191
合計	10,767,032	10,265,206	501,826

	支 出
委員会費	280,752
新卒者を励ます会	1,340,000
慶弔費	10,100
雑費	3,779
小計	1,634,631
平成8年度へ繰越	8,392,032
合計	10,026,663

<次年度繰越金(平成8年度残高)内訳>

定期預金(千葉銀行)	5,000,000
普通預金(千葉銀行)	3,466,484
現金	109,739
合計	8,576,223

年会費制の導入のご案内と年会費納入のお願い

画像工学同窓会の運営のため、年会費（1,000円）を同封の振込用紙にて送付してください。

これまで、千葉大学工芸写真会・芝葉印刷学部会ともに、皆様からの寄付のほか、入会金をもって運営されてきました。この度発足いたしました<画像工学同窓会>では、会則にもございますように、皆様から年会費（1,000円）を納めていただくことになりました。これは、本会発足にあたり、会の運営に必要な経費が種々検討された結果であります。本会の会員資格のある方が4,600名に及び、会員各位への郵送料だけでも相当な金額になるためです。

画像工学同窓会設立総会開催

1990年4月に工学部の改組により画像工学科が発足しました。学外及び学内委員による同窓会設立に関する熱心な検討が行われ、1996年9月14日に画像工学同窓会が設立されました。画像工学同窓会設立の様子を会員の皆様に報告いたします。

西千葉の千葉大学けやき会館大ホール及びレセプションホールを会場にして、画像工学同窓会設立総会と、その前後に記念講演会と懇親会が開催されました。

1. 記念講演会 (午後2時～午後4時、大ホール)

「21世紀のイメージング技術」をテーマに、本学の同窓生で活躍しておられる3名をお迎えして講演会が開催されました。山岡亜夫氏 (昭和37年卒) の司会により東海大学情報技術センター、坂田俊文教授 (昭和30年卒) が「画像情報技術の展開」について、北村孝司氏 (昭和45年卒) の司会により (株) 帆風、犬養俊輔氏 (昭和45年卒) が「インターネットと印刷」について、三位信夫氏 (昭和3

3年卒) の司会により富士写真フイルム (株) 足柄研究所、久保田薫氏が「アドバンスフォトシステムにおける画質設計」について講演されました。本学の卒業生で活躍の各氏の熱の入った講演は、聴講者に深い感銘を与えました。広いホールも熱気に包まれて、聴講していた若い学生に対しても希望を抱かせるすばらしい講演でした。

2. 設立総会 (午後4時～午後5時、大ホール)

甘利武司氏 (昭和41年卒) により開会の挨拶が述べられ、続いて画像工学同窓会の設立趣旨が三位信夫氏 (昭和33年卒) により説明されました。画像工学同窓会会則、運営内規について大野隆司氏 (昭和40年卒) より説明があり、審議の結果画像工学同窓会の設立が承認されました。続いて役員候補者として、会長に吉村実氏 (昭和35年卒)、副会長に本田捷夫氏 (特別)、山司康雄氏 (昭和29年卒)、三位信夫氏 (昭和33年卒) が推薦され、

承認されました。顧問、幹事などの役員が推薦され、承認されました。矢口博久氏 (昭和49年卒) により会計報告及び平成8年度の予算案及び事業計画について説明があり、承認されました。

吉村実会長より挨拶があり、続いて画像工学科学科長本田捷夫教授 (特別)、千葉大学工芸写真会会長高橋恭介氏 (昭和34年卒)、芝葉印刷学部会長古賀健一郎 (昭和29年卒) より、画像工学同窓会設立に対して祝辞が述べられました。総会は大沢慎一氏 (昭和41年卒) 及び志村暉雄 (昭和41年卒) の司会により滞り無く進行しました。

3. 懇親会 (午後5時～午後7時、レセプションホール)

豊田 芳州 (昭和40年卒) の司会により和やかに懇親会が開かれ、広いレセプションホールも117名の参加者で狭く感じるほどの盛会でした。(大野、北村)

画像工学科の大先輩で日本最初の本格派フォト・ジャーナリスト

大東元 (おおつか げん) 氏 (昭和8年卒) の新刊写真集

「軌跡 - 大東元の世界」

独自の広角写法で昭和 (戦場・街・風俗・舞台・風景) を撮りつづけた、千葉大学工学部画像工学科の大先輩であり、日本最初の本格派フォト・ジャーナリストといわれた大東元 (おおつか げん) 氏 (1912～1992年) の新刊写真集。

大東元氏は、1912年東京に生まれ、1933年に東京高等工芸学校 (現千葉大学工学部) 写真科を卒業した。卒業後、友人3人と「銀座商業写真研究所」を設立して朝日新聞社の募集を待ち、翌1934年に朝日新聞大阪本社の社会部に入社し、日本最初の本格派フォト・ジャーナリストとしての一歩を踏み出した。

この写真集には、東京高等工芸学校写真科在学中の1933年に写真同人誌「光画」に発表し英国写真年鑑「Modern Photography 1934-1935」に収録された作品「やもり」にはじまり、1934年に入社して

1967年に退社するまで昭和の戦場・街・風俗・舞台・風景を撮りつづけた朝日新聞社時代の数々の作品、そして晩年の作品まで、東京都写真美術館所蔵の302点が一挙に収録されている。

写真ジャーナリスト・岡井輝毅氏はこの写真集のパートIIで、東京高等工芸学校写真科在学中から、朝日新聞社時代の戦火の下の中国大陸・タイ・シンガポールでの取材活動、爆撃下の日本上空での敵機の偵察撮影、戦後の社外活動、そして定年退職後の活動に至るまで、写真を天職と心得て全生活を写真行為に注ぎ込んだ大東元氏の生涯を詳細に紹介し、「大東元は写真というもの、一方では社会・風俗を写し出す鏡面体として一種の批判的報告として扱い、他方ではやみがたい美的世界への夢幻憧憬をつづるロマンの行為としてとらえていた一彼は、生来のフォト・ジャーナリストだった。」と評伝している。

この写真集は、1996年11月に株平凡社から発行されたが、一般書店では入手困難なので、企画・編集を行った下記の (株) 凱風舎へ電話またはFAXにて注文すれば、送料無料で入手できる。

定価は3,800円

株式会社 凱風舎 (担当者: 安井 誠)

電話: 03-5261-4191

FAX: 03-5261-4195

ご参加下さい!

新入会員歓迎会 (新卒者を励ます会)

新入会員である画像工学科の新卒業生を囲み、懇談会を行う予定です。皆様是非ご参加ください。

日時: 平成10年3月23日 (月曜日)

卒業式、学位授与式終了後

場所: 千葉大学学生会館

平成9年度の総会

下記のように開催いたします。ぜひ、皆様お誘い合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

～記～

日時: 平成9年12月5日 (金)

総会 午後6:00～

総会式次第 (予定)

- ・平成8年度事業報告、会計報告、会計監査報告
- ・平成9年度事業計画、予算案
- ・千葉大学工芸写真会・芝葉印刷学部会・関西支部の報告

懇親会 午後6:45～

場所: KKRホテル東京 (旧竹橋会館)

東京都千代田区大手町1-4-1 (03-3287-2921)

地下鉄東西線竹橋駅下車徒歩1分

会費: 5,000円 (当日お支払いください)

*出席される方は、同封の葉書で11月21日 (金) までに到着するようにお申し込みください。

関西支部便り

昭和59年より、印刷科卒業生有志により井下廣氏（昭和15卒）を会長に、関西芝葉会としてスタート、毎年20名前後の出席者で、総会及び懇親会を開催しています。大学の組織変更により、印刷科と写真科が一緒になったのを機会に平成6年より写真科の卒業生にも呼び掛けて参加して貰っています。

平成9年6月28日の関西芝葉会総会にて、会の名称を画像工学同窓会関西支部とする事に出席者全員で決定しました。平成10年は7月11日（土）に画像工学同窓会関西支部としての第1回総会及び懇親会を大阪東洋ホテル（地下鉄御堂筋線中津駅）にて、午後6時より開催します。多数のご参加をお待ちしています。

事務局 大阪市鶴見区鶴見4-6-4
大同印刷株式会社内 岩田 克彦
TEL 06-934-2121 内線 401
FAX 06-934-0201

会員だより

昭和62年卒業 丸山（旧姓 森）美恵子

早いもので卒業してから10年も経ってしまい、私もすでに1児の母となりました。私が卒業した年は、ちょうど男女雇用均等法施行の年となり、その1期生として大日本印刷株式会社へ入社いたしました。入社後は営業職を希望し、約8年間勤務しておりました。

当時、女性の営業外勤者はほとんどなく、得意先へ行っても相手の私に対する第1印象は、あまり良いものではないようでした。しかし、上司がそれを察し、相手に「千葉大学の画像系卒」であることを告げると、態度は一変し、好感を持って接していただきました。そして得意先から当然のごとく、画像についての幅広い知識を求められ、それに答えるために、学生時代にはあまり開かなかった教科書をよく勉強しました。また、現場や他の部署、外注先、同業他社にも同窓の先輩が数多く居られ、ご教授を賜りました。

入社以来手がけてきた大きな英和辞典が完成し、発売されたのを機に退職いたしました。今でもそのお得意先や業者の方々とはおつきあいがあり、時々お会いしては、いろいろと刺激され勉強になっております。現在は、高齢者福祉という全く異なる仕事に就きましたが、子育ても落ち着いた頃にはまた画像関連の仕事がしたいとも思っております。

最後になりましたが、同窓会の益々のご発展を心よりお祈り致しております。

募集!

「会員だより（仮称）」原稿募集

皆様の近況やクラス会・職場での集まりなどの様子を、ご連絡いただいたものから、誌面の許す範囲で掲載していく予定です。同封の葉書あるいは封書（宛先は葉書と同じ、封書の場合の郵送料はご負担ください）などでお送りください。なお、お送りくださった原稿・写真は返却できません。また、掲載については、ご一任くださいますようお願いいたします。

会誌の愛称を募集します!

会誌に名前をつけてください!

新しく生まれた画像工学同窓会誌に名前（愛称）をつけてください。皆様からの意見をもとに決定したいと考えています。同封の葉書の通信欄にご記入の上、お送りくださいますようお願いいたします。

画像工学科のあゆみ

- 1914年（大正3年） 東京美術学校（東京芸術大学の前身）図案科に東京高等工業学校（東京工業大学の前身）図案科が移管・併合された際、東京高等工業学校図案科に付属していた製版特習部が切り離され、製版科が新設された。
- 1915年（大正4年） 東京美術学校に臨時写真科が新設され、数年後に写真科と改称された。
- 1922年（大正11年） 東京高等工業学校（千葉大学工学部の前身）創立の際に東京美術学校製版科が移管され、印刷工芸科が新設された。
- 1926年（大正15年） 東京美術学校写真科が東京高等工業学校に移管され、印刷工芸科付属写真部が設置された。
- 1944年（昭和19年） 東京高等工業学校が東京工業専門学校と改称され、印刷工芸科ならびに印刷工芸科写真工業部が設けられた。また、印刷工芸科写真工業部には、文部省科学研究補助技術員養成所が併設された。
- 1945年（昭和20年） 東京工業専門学校印刷工芸科写真工業部が写真工業科に改組され、文部省科学研究補助技術員養成所は廃止された。
- 1949年（昭和24年） 新制大学令により、東京工業専門学校が千葉大学工学部となり、四類（化学、印刷、写真系）が設置された。
- 1951年（昭和26年） 千葉大学工学部が工学部に改組され、四類は工業化学専攻、写真映画専攻、印刷専攻の3専攻からなる工業化学科に改編された。
- 1952年（昭和27年） 千葉大学に工業短期大学部が新設され、写真科と印刷科が設けられた。
- 1958年（昭和33年） 工学部工業化学科が改組され、写真映画専攻と印刷専攻の2専攻からなる写真印刷工芸科が新設された。
- 1962年（昭和37年） 工学部写真印刷工芸科が写真工芸科と印刷工芸科に分離・改組された。
- 1963年（昭和38年） 工学部に天然色工学研究施設が新設された。
- 1966年（昭和41年） 大学院工学研究科（修士課程）に写真工学専攻が新設され、工学部天然色工学研究施設の全教官も参画した。
- 1967年（昭和42年） 大学院工学研究科（修士課程）に印刷工学専攻が新設された。
- 1969年（昭和44年） 工業短期大学部写真科が写真工芸科に、印刷科が印刷工芸科に改称された。
- 1976年（昭和51年） 工学部写真工芸科と印刷工芸科が一体化され、画像工芸科に改組された。また、工業短期大学部写真工芸科と印刷工芸科が一体化され、工学部特設工学課程画像応用工学専攻（4年制主夜間コース）に改組された。
- 1978年（昭和53年） 工学部特設工学課程画像応用工学専攻が廃止され、画像工芸科に4年制主夜間コースのBコースが設置された（従来のはAコースと呼称）。
- 1982年（昭和57年） 工学部画像工芸科が画像工芸科と画像応用工芸科に分離・改組された。
- 1986年（昭和61年） 大学院工学研究科に博士課程の生産科学専攻が新設され、工学部画像工芸科の一部の教官が参画した。また、工学部付属天然色研究施設が全学施設・千葉大学映像隔測研究センターに改編された。
- 1987年（昭和62年） 大学院理学研究科に博士課程の数理・物質科学専攻画像形成科学講座が新設され、画像工芸科と画像応用工芸科の多くの教官が参画した。また、大学院工学研究科（修士課程）写真工学専攻が画像工学専攻に、印刷工学専攻が画像応用工学専攻に改称された。
- 1988年（昭和63年） 大学院工学研究科と理学研究科の博士課程が、全学的な大学院自然科学研究科（博士後期課程）に改組・統合された。
- 1990年（平成2年） 工学部画像工芸科と画像応用工芸科が一体化され、画像工芸科に改組された。
- 1993年（平成5年） 大学院工学研究科（修士課程）画像工学専攻と画像応用工学専攻が一体化され、画像工学専攻に改組された。
- 1994年（平成6年） 大学院自然科学研究科（博士後期課程）に情報システム科学専攻が設置され、生産科学専攻参画の画像工芸科教官が移籍した。また、像形成科学講座が属している数理・物質科学専攻が、物質科学専攻に改称された。
- 1995年（平成7年） 千葉大学映像隔測研究センターが全国共同利用施設・千葉大学環境リモートセンシング研究センターに改編された。
- 1996年（平成8年） 大学院工学研究科（修士課程）が、理学研究科と園芸学研究科の修士課程と一体化されて自然科学研究科（博士前期課程）となり、画像工学専攻が像科学専攻に改組された。